

報道関係者各位

2026年6月25日

一般社団法人日本コンピュータシステム販売店協会(JCSSA)  
 〒100-6208 東京都千代田区丸の内1-11-1  
 パシフィックセンチュリープレイス丸の内(受付13階)  
 TEL:03-6860-8254  
<https://www.jcssa.or.jp/>  
 E-mail : tmikanohara@jcssa.or.jp

## AI関連事業の取り組みに前向きな企業は8割超。景況感は前回から一転して悪化 ——第25回JCSSA DI(景気動向)調査

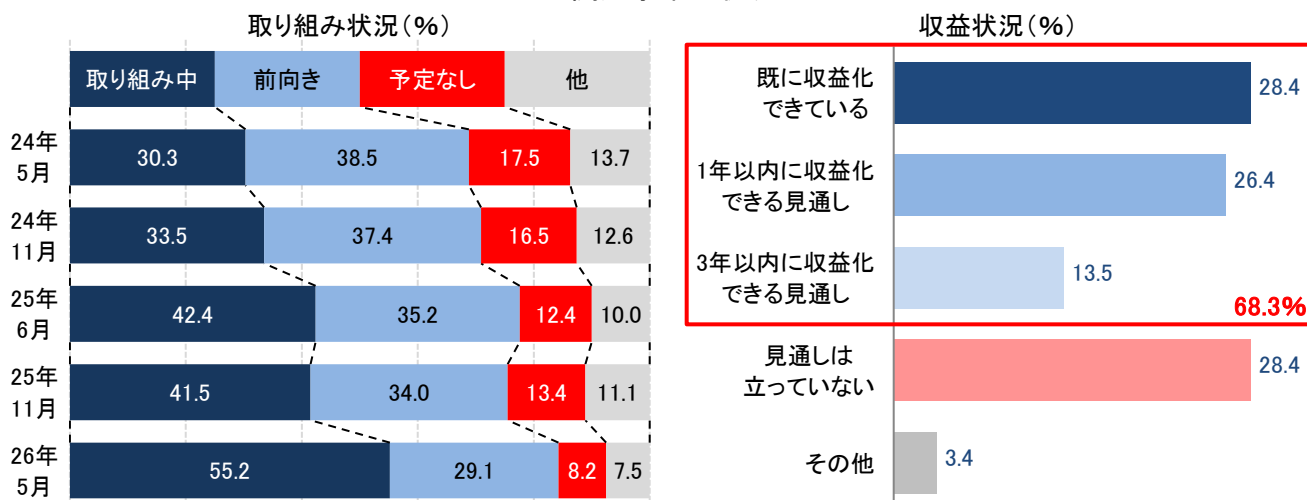
コンピュータシステム販売に関する調査研究や人材育成、普及や啓発、情報収集・提供を行う業界団体、一般社団法人日本コンピュータシステム販売店協会(JCSSA 東京都千代田区 林 宗治 会長)は2026年5月、会員企業のうち451社を対象に「第25回 JCSSA DI調査」を実施、268社から回答を得た。今回の調査では、AIに対する関心は高く、AI関連事業に取り組み中の企業は初めて5割を超え、取り組みに対し前向きの比率も加えると8割に達したことが明らかになった。しかし、景況感に関するDI値は、前回から一転して大きく落ち込んだ。特に半年後の景況感の見通しでは、前回から57.1ポイントと大幅に下回った。日経平均株価は過去最高を更新しているものの、不安定な中東情勢や為替動向への懸念が強く、景況感の先行き判断に慎重さが広がっていることが、今回の調査から浮き彫りとなった。

### ■AI関連事業に取り組んでいる企業で、既に収益化できているのは3割に迫る

生成AIやAIエージェント関連事業に「取り組み中」の企業は55.2%と過半を占めた。24年5月時点では30.3%だった取り組み中の比率は、回を重ねるごとに着実に増加していることも明らかだ。一方、事業にに取り組む予定がある、事業化について調査・研究しているを合わせた「前向き」の比率は減少し、前向きから取り組み中へとシフトしている様子もうかがえる。また、取り組み「予定なし」の比率も減少していることから、AI関連事業に対する関心の高さが鮮明となった。

AI関連事業に「取り組み中」の企業のうち、「既に収益化できている」のは3割近くに達した。「3年以内に収益化できる見通し」まで含めると7割に迫る。『既存機能への組み込み』や『独立採算する事業ではない』といった声も上がっており、新たなサービスというよりも、これまでの製品やサービスの付加価値として提供している実態も浮かび上がった。

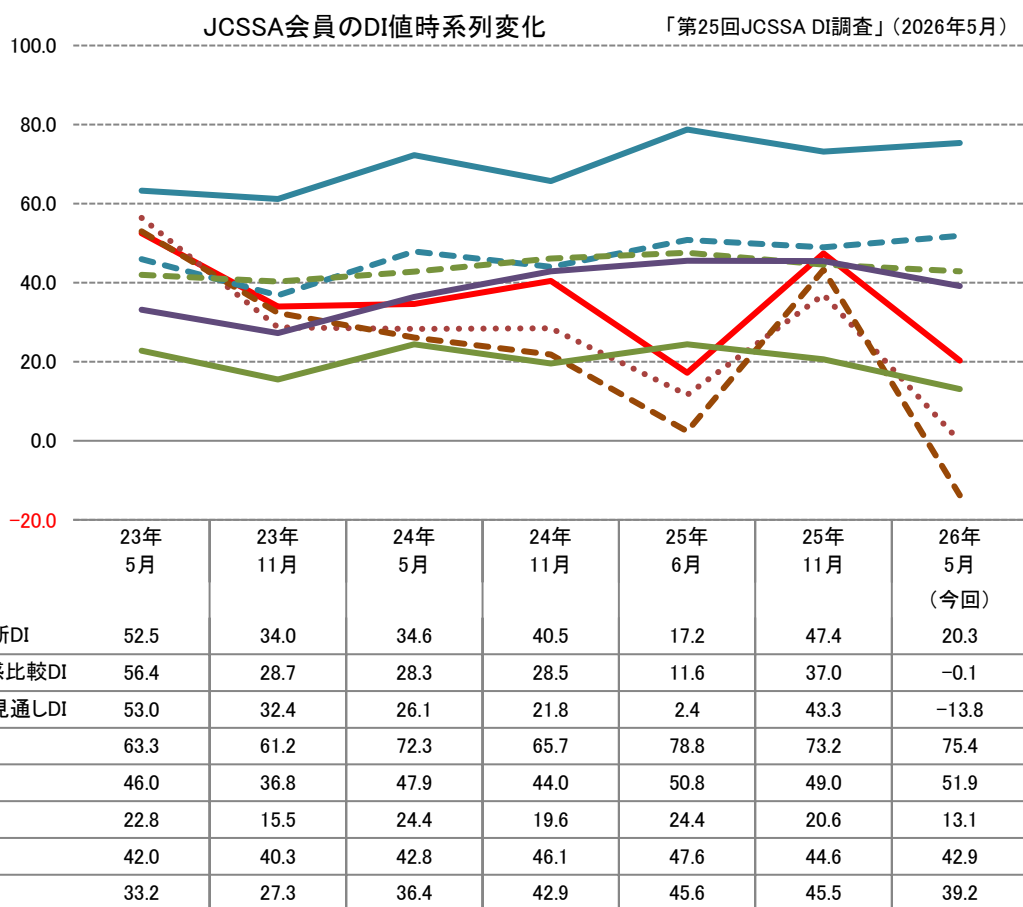
AI関連事業の状況



「第25回JCSSA DI調査」(2026年5月)

## ■景況感は悪化、採用関連と設備投資でも低下したが、人件費のみ微増

景況感DIに関する3項目において、25年11月の前回調査と比べ、大幅に下回る結果となった。まず、「景況感の現状判断DI」では20.3と前回から27.1ポイントも低下した。次に「半年前との景況感比較DI」は-0.1で前回から37.1ポイントのマイナス。更に「半年後の景況感見通しDI」も、前回から57.1ポイント減少し、-13.8まで悪化した。現状判断はプラスを維持したが、半年後の景況感が悪化すると感じている企業が多い。一方、「賃上げDI」は前回比で2.2ポイントプラスの75.4となった。また、「賞与DI」も51.9と、前回より2.9ポイントプラス。人件費に関するDIは小幅ながらもプラスで、高い水準を維持している。採用関連では、「新卒採用DI」が13.1（前回比：-7.5ポイント）、「中途採用DI」が42.9（同：-1.7ポイント）となり、ともに前回よりも若干の落ち込み。「次期設備投資DI」も、前回比で6.3ポイントマイナスとなり、39.2にとどまった。



### ■「第25回JCSSA DI調査」調査概要■

対象 : JCSSA会員企業のうち 451社  
(正会員325社、賛助会員126社)

有効回答数: 268社

最終回答率: 59.4%

調査手法 : インターネット調査

調査期間 : 2026年5月18日～5月27日

※DIとは

Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、企業や業界などの景況感や業況感、設備、雇用人員の過不足などを数値化する際に用いる指標。日銀が発表している「日銀短観」などでも採用されている。「良い」と答えた回答会社の割合から「悪い」と答えた回答会社の割合を引いて算出する。すべて「良い」で100になり、「良い」「悪い」が同割合で0、すべて「悪い」で-100になる。